

団体名		高根ピーターパンズ（愛知県豊田市）	
団体の概要	活動開始年	西暦 2001年 4月 活動開始	
	メンバー	人数	< ボランティア数 > 7名
		構成	向こう3軒両隣に住む定年退職した男性
	予算規模	平成13年度概算 ・収入 ¥26,890 ・支出 ¥26,890	
団体の目的		・楽しみながら活動し、相互理解と親交を図る。	

#### ボランティア活動の概要

廃棄物（14年間放置されたU字溝）を絵のあるベンチに再製して、散歩道に据える活動を行っている。まず、ベンチを設置する場所として、安全で通行の邪魔にならない場所を選定する。その後、放置されたU字溝を搬出運搬し、ハンマーやサンダー、放水で洗浄したうえに、ペンキを重ね塗りするという作業である。

再製したのちも、メンバーが交替で清掃等のメンテナンスを行い、その周囲に花を植える活動も行っている。これまでに製作・設置したベンチは81個31ヶ所におよぶ。再製されたベンチは信号を待つ間や散歩の途中で休憩したり、高齢者など住民が語らう場所としても利用されている。

町内で見かける黄色いベンチを見て「卒業の記念品にしたい」という小学校からの申し出があり、その卒業記念作品としてのベンチ作りに裏方として参加した。子ども達は、高根ピーターパンズのメンバーが用意したU字溝に学校生活の思い出や動物、植物、自然などを描いた21個のベンチを製作し、小学校内ビオトープや通学路、幼稚園庭に設置した。

#### ボランティア活動を立ち上げた経緯

会社勤めをしていた頃には、家と会社の往復だけで、近所に住んでいる人とも交流がなかった。定年を迎え、地域のなかで自分にできることがあればやっていきたいという思いと、定年者同士のコミュニケーションをとっていこうという思いが重なって、高根ピーターパンズを結成した。団体の名前は「ロマンを追いつづける少年」という意味で命名した。

活動内容は、話し合いのなかで「地域を歩行中に休むところがあるといい」「放置されているU字溝を何とかできないか」という意見が出て思いついた。

## 元気に活動している要因

### <要因1：まず自分達が楽しむ>

まず、自分達がゆっくりと楽しみながら活動を続けることを目標としている。義務感が伴わないように特別の場合を除き、活動頻度は毎月第1、第3土曜日の月2回を原則としている。また、不要品を活用することで自費は使わないように工夫し、無理なく活動できている。

### <要因2：全員が「会長」として活躍>

メンバー全員が会長を名のり、発言・行動に責任を持って活動している。メンバー、自治区、社会福祉協議会との連絡を密にし、情報交換に務めながら、それらの情報は詳細にわたり回覧で伝えるなど、常に同じ情報を会員が持っているようにしている。相談事項、活動内容については、全員で徹底的に話し合っている。

### <要因3：子ども達との交流で元気をもらう>

P T A、学校とも連携して活動するなかで、子ども達からもらった99通のお礼の手紙が活動のエネルギーになっている。また、あいちボランティア・フェスティバル・ブース展に出展し、自分達の活動をアピールしたり、他の活動を見たりすることが、刺激にもなった。

## 今後の課題と展望

活動を立ち上げてから年月が短いため、今は基盤をつくる時期であるとの認識から、特にメンバーの募集はしてこなかった。今後は、近隣以外にも範囲を広げて、活動参加を呼びかけてメンバーを増やすべきかどうか、検討している最中である。

これからも、設置したベンチのメンテナンス活動を続けるとともに、ベンチ以外のU字溝のユニークな活用方法を考えていきたい。また、新たな活動として、地域広場（村の有志所有）に東屋を手作りすることを開始しようと考えている。

(団体代表者によるレポート、団体資料より作成)

### <ベンチの利用状況の写真>



<ベンチの利用状況の写真>



<ベンチ作りの過程の写真>



<この事例のポイント>

現役時代には接点がなかったにもかかわらず、近隣の定年者同士の男性が集まった仲間づくりが発展して、「楽しむ」ことを目標に据えたボランティア活動を行っている。廃棄物・不要品の利用などで、活動にかかる費用負担を抑え、肩肘はらない活動ができています。

一方で、それぞれが責任をもって役割を果たそうと全員が「会長」としての自覚を持って活動していることが、元気に活動を続けられている秘訣であろう。

仲間づくりという一つの目標を達成し、U字溝の活用についても一定の成果を得ることができているが、そののちも同様の活動内容を継続しつつ、東屋の手作りという新たな目標を設定している。段階を踏みながら徐々に新たな目標を設定していくことは、ボランティア自身にとっても負担のないものであるとともに、団体の活動としても単調化を防ぐことが可能となっている事例である。